

2015 年度 特別支援教育フォーラム

2015 年 12 月 16 日

和歌山大学特別支援教育

コーディネーターフォーラム事務局

Info-seforum@center.wakayama-u.ac.jp

第 64 回和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムを開催

12月16日(水)夜に、和歌山大学コーディネーターフォーラムが、和歌山大学会場で開催されました。今回は、和歌山大学特別支援専攻科の学生の発表になっており、テレビ中継はしませんでした。お忙しい中、15名の方が出席して下さいました。

講演内容

「小学校の特別支援学級における iPad を活用した授業実践

発表者：和歌山大学 教育学部特別支援専攻科

南方寿憲

平成 26 年度より、特別支援教育就学奨励費において高等部の学用品購入費の拡充が行われ、ICT 機器等購入費 50000 円が加算された。高等部では、平成 26 年より iPad を各家庭で購入してもらい、平成 28 年度には、高等部生徒全員が所持することになる。このように、ICT の活用を積極的に推進されている。

支援学級で学習アプリとノート共有アプリを使用して授業を行った。学習アプリを使用し、視覚的なアニメーション効果で楽しみながら計算問題や書き取りに取り組むことができた。また、ノート共有アプリを使用した「しりとり」では、人前で書くことを嫌がっていた児童が参加できた。

にぎやかな場所が苦手な A 君は、交流学級の授業に参加しようとしなかった。FaceTime を使用し、交流学級の授業中継を始めると、授業の様子を興味深く見て理科の授業に参加できた。交流学級の児童も、A 君に声をかけるなど関わる場面もあった。

アプリを使用することで楽しみながら学習ができ、交流学級の様子をリアルタイムで知り、安心して授業に参加できるなど、学習や他の児童との交流が高まると考えられる。しかし、アプリの機能だけに頼らず、日ごろからメンタル面への支援を十分にし、iPad 使用のルール作りや情報モラルの指導をすることが必要だ。

質疑応答：

質問 交流の目的は、友達と関わるのか、授業に参加することのどちらか。

A 交流学級へ行くのを嫌がっているので、授業に参加できればいいと思った。

講演内容

「通級指導教室における児童の自信とやる気を育む授業の実践」

～タブレット端末を活用した九九の学習～

発表者：和歌山大学 教育学部特別支援専攻科 芝 大也

A君は、集中が続かず、短期記憶に課題を抱えている。算数の授業では九九を学んでいるが難しい。アプリを使用して九九の学習に取り組んだ。出題が一問一答わかりやすく瞬時に評価され、画面が見やすく余計な音が鳴らないなどシンプルなアプリだったので、A君は楽しんで学びほとんどの段を覚えることができた。

タブレット端末を使用は、書くことに抵抗のある児童の学習に適している。動画を録画しすぐ振り返ることができる、ノートを共有できるなどメリットがある。しかし、機器を扱うことに楽しみを感じ、学びにつなげることを定着するのに時間がかかり、静かに考えをまとめていくようなことが薄れるのではないかとといったことがデメリットとして考えられる。

特別支援教育コーディネーターとして、先生個々で気づいたことを他の先生に伝えること、相手を理解して寄り添うことが大切だと思った。

質疑応答：

質問 短期記憶が弱いということだが、どの部分なのか。聴覚的な部分か。

A 聴覚的部分が弱い。話をしているも、自分がどこまで話したか忘れる。視覚的に覚える方が得意である。子どもが持っている得意な部分を使って学習を進めていくことが大切。

参加者の感想より：

- ・iPadを使うことで、「見えない不安」が「見えること」で少しでも交流学級に興味をもてたことは大きな一歩だと思った。このような積み重ねが、子どもを大きく支えていくと思う。
- ・九九を学習できたことはもちろんよかったが、「自分から学習する意欲」できた！という「達成感」を得られたことが大きな自信につながりよかったと思う。
- ・子どもが何に困り、つまづいているかを判断して、教師が適切な教材を選択することが大切だと感じた。